



## 京都府京田辺市 (J A 京都やましろ管内)

### さんさん山城

## 農福連携

# 「ノウフク JAS」で生産物がさらに輝く



認証された商品に貼ることができるノウフク JASマーク

京都府南部の京田辺市で、聴覚障害者などの就労支援に取り組み「さんさん山城」。

平成二十三年の開所以来、農業を中心に、食品・菓子類の製造から販売までの事業を展開。二十九年に農作物を使った料理を提供するコミュニティカフェもオープンしました。

生産しているのは「京都田辺茄子」「宇治茶」など同市のブランド農作物のほか、カフェでも使用しているキュウリやトマトなど、約五十種の農作物。冬期間はハウスで、「えびいも」などの苗づくりにも取り組んでいます。「京田辺に受け継がれる農村文化を、同じ地域住民として共有したい、というのがわた

自然相手の仕事はたいへんだけどやりがいがあります！



認証を受けました。

したちの原点。産地の一員としてよりよい農作物を提供したいと思い、J A の野菜部会に加入し出荷しています」と、事業所管理者の藤永実さん(67)は話します。こうした取り組みが評価され、さんさん山城は令和元年十一月に「ノウフク J A S」第一号の

「ノウフク J A S」とは、J A S 法の改正により三十一年三月に新しく誕生した規格のこと。農作物にたいして、その生産工程に農福連携を取り入れつつ、障害者が携わった農作物であることを書類審査と実地検査によって確認。認証

- 営業時間/11:00~15:00 (ランチは11:30~14:00)
- 定休日/土・日曜日

上/全70aの圃場<sup>ほじょう</sup>でさまざまな野菜を生産している  
下/収穫したえびいも



上/カフェ担当のみなさん。ランチの片づけを終えて、ほっと一息。翌日のランチに向けて、ミーティングは欠かせない

チームワークは抜群！  
いつも笑顔の  
絶えないカフェです

下/地域の特産品が食べられるカフェのランチは500円(税込み)。多い日には100人以上、平均でも70人ほどの客が訪れる

されるとノウフクJASマークが与えられるという制度です。これによって、農福連携の取り組みを推進し、持続可能な社会の実現につながることを期待されています。

さんさん山城では京都田辺茄子やえびいも、「万願寺とうがらし」、「鷹の爪」の四つ

の農作物のほか、抹茶や抹茶クッキー、えびいもの茎を干したずいきなど五つの加工品が認証されました。

ノウフクJAS認証までには、技術面の向上はもちろん、作業の安全対策や栽培履歴の記録、農機具や農薬の使い方、保管法など、基準を満たすた

めにやるべきことが多くあり、苦勞したそうです。JAの支援もあってその基準をクリアできたと藤永さんは話します。

また、ここで作業する利用者者にノウフクJAS認証への取り組みの周知にも尽力しました。きめ細かな支援が求められる利用者にとって、作業内容を理解しやすいように手順をイラスト化したり、朝礼や終礼で、作業説明を整理してきちんと伝えたりして、



高級抹茶をふだんに使用した「濃茶大福」は200円(税込み)

職員と利用者が一丸となってノウフクJAS認証に向けて取り組んだといえます。

「こうした工夫やルールづくりがあるからこそ、商品の販売会でも『全国で第一号の認証を受けられました』と、胸を張って説明できます」と、藤永さん。実際に、ノウフクJAS認証後に商品を手取る人は増えており、利用者は張りあいと誇りを感じていると言います。

「みんなにとつてのよりよい暮らしをめざす農福連携は、エシカル消費の考えにもびつたりです。この活動がどんどん広がって、障害者が輝く社会につながればいい」

そんな未来を描く藤永さん。次の目標はGAP認証！と、力強く語ります。

さんさん山城  
コミュニティカフェ

●住所/京田辺市興戸小モ話18-1  
●電話/0774-39-7113